

Cancer-testis antigens PRAME and NY-ESO-1 correlate with tumour grade and poor prognosis in myxoid liposarcoma

井浦, 国生

<https://hdl.handle.net/2324/1654690>

---

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



KYUSHU UNIVERSITY

氏 名：井浦 国生

論 文 名：Cancer-testis antigens PRAME and NY-ESO-1 correlate with

tumour grade and poor prognosis in myxoid liposarcoma

(粘液型脂肪肉腫において癌精巣抗原 PRAME と NY-ESO-1 は腫瘍悪性度と  
予後不良に相関する)

区 分：甲

#### 論 文 内 容 の 要 旨

粘液型脂肪肉腫 (MLS) は脂肪肉腫で 2 番目に多い肉腫であり、化学療法感受性を有するが、再発や転移症例は未だに予後不良である。MLS の診断に有用なマーカーや治療標的を特定するために、我々は gene microarray を用いて 6 例の MLS の臨床検体と 3 例の正常脂肪検体の遺伝子解析結果を比較した。その結果 MLS での癌精巣抗原 PRAME の高発現を認めた。そこで我々は免疫染色、western blotting 及び real-time PCR を用い、PRAME と他の癌精巣抗原である NY-ESO-1 の発現を以下の臨床検体を用いて解析した：MLS (n=93)、脱分化型脂肪肉腫 (n=46)、高分化型脂肪肉腫 (n=32)、多形型脂肪肉腫 (n=14)。免疫染色では PRAME と NY-ESO-1 の陽性率はそれぞれ MLS で 84/93 (90%) と 83/93 (89%)、脱分化型で 20/46 (43%) と 3/46 (7%)、高分化型で 3/32 (9%) と 1/32 (3%)、多形型で 7/14 (50%) と 3/21 (21%) であった。PRAME もしくは NY-ESO-1 の高発現は腫瘍径、壊死の存在、円形細胞領域 >5%、高い組織学的 Grade そして進行した臨床 Stage と有意な相関を認めた。PRAME と NY-ESO-1 高発現は単変量解析で有意な予後不良因子であった。MLS では他の脂肪肉腫の亜型と比較して、PRAME と NY-ESO-1 (*CTAG1B*) の蛋白と mRNA の発現が有意に高かった。結論として PRAME と NY-ESO-1 は MLS の大部分で発現し、それらの高発現は腫瘍の Grade と予後不良と相関していた。我々の結果から PRAME と NY-ESO-1 が MLS の補助的な鑑別診断のマーカーと予後不良因子となり、これら癌精巣抗原を標的とした免疫療法の更なる発展が示唆された。